

今井城学園通信

社会福祉法人 天使園
児童養護施設
今井城学園
青梅市今井 2-1207-8
発行日 2015年7月
第9号

園長あいさつ

小田川広明

夏休みも間近になり、慌ただしい毎日が続いていると拝察いたします。今井城学園も新年度となり、子どもたち及び職員の異動がありました。特に昨年度末は5名の子どもたちが卒園し、就職や進学をしていきました。また、5名の子どもたちが家庭に帰って行きましたので、2割弱の子どもたちが入れ替わったこととなります。新年度を迎え3ヶ月が過ぎ、少し落ち着いてきたところです。

さて、6月19日（金）に、東京都の児童自立支援施設や児童相談所に勤務されていた、井上幸夫さんが今井城学園を訪問されました。井上さんは東京都を定年で退職後、子どもの虐待防止オレンジリボン活動啓発のため、昨年10月から、日本全国1万キロを啓発ランしています。

山梨県から埼玉県に抜ける途中に立ち寄ってくれました。今後は、群馬県から新潟県を抜け北上するそうです。

今井城学園でも、入所している子どもたちの7割ほどが虐待環境の中で育ってきています。

そのため、愛着・学力・食生活・生活習慣等様々な課題を持っています。東京都内では、東京都の一時保護所や児童養護施設は満杯の状態が続いています。子どもの虐待が少しでも少なくなるように願っています。

なお、井上さんの啓発ランについてご興味のある方は、「井上幸夫」とキーワードを入れますと、ホームページが検索できます。



学園紹介シリーズ

No.9

小規模化とグループワーク

児童養護施設の小規模化と家庭的養護への動きにつきましては、本誌面でもたびたび述べてきました。また、今井城学園の形態につきましても同様です。小規模化に伴い、施設としての全体行事等につきましては、様々な施設で減少傾向にあります。そのような中、今井城学園では、春のスポーツ大会、臨海、バーベキュー、地域交流会、餅つき・かるた大会、卒園式など、全体で行う行事を残しています。クリスマス会及び卒園式の会食会は子どもたち職員全員で100名近い人数になります。

子どもたちは、日常生活の中では少人数で家庭的な環境で生活しています。しかし、社会生活の中では集団の一人として役割を果たし、みんなで協力する事が求められるときがあります。虐待を受けて育ってきた子どもたちは、他人の事を考える事が苦手な子もいます。様々な場面を使い、子どもたちの手助けをしたいと考えています。

また、職員としては、多くの人に参加する行事を企画・運営することで、企画力、情報収集力、先を見通す力（リスクマネジメント）及び実行力等が身についていくと考えています。このような力は、日常生活で子どもたちをケアする上で大切な力だと思います。

性教育委員会より ～第1回～

性教育委員会では、性＝生の認識に立ち、周りの人と適切な人間関係を築いたり、自分の性や生い立ちについて肯定的に受け止めたり、理解できるようになることを目的とし、年齢別（幼児・小学生高学年・中高生女子・中高生男子・ハンディキャップ児童）の学習会や、そのための教材作りを行っています。

また、平成26年度には、園内で事故や怪我が起こりやすい場所・死角を地図に表記するハザードマップ、事故や怪我が起きやすい時間帯とその理由を一覧表にしたハザードタイムの作成等を行いました。ハザードマップとハザードタイムは、危険な場所、危険な時間帯を職員が意識することで、事故や怪我の発生を防ぐことを目的に作成しました。昨年度からの取り組みのため、定着をはかっている最中です。

委員会のメンバー構成として、各ホールから（本園からは2階男子ホール・2階女子ホール、3階男子ホール・女子ホールの4カ所、グループホームからは、みずがき・みき・いぶき・やまぶきの4カ所、心理士）から1名ずつ選出し、計9名で活動しています。各ホールからメンバーを出している理由は、委員会で決まったことや学習会でいったことをそれぞれのホールに周知し、学園全体で統一した学習を行えるようにするためです。



メンバーの中には、心理士もいるため、アドバイスをもらいながら、児童のニーズにあった内容、児童への適切なアプローチ方法で性に関する知識を提供できるよう取り組んでおります。

次回の今井城学園通信では、学習会でやっている内容や取り組み方についてお伝えする予定です。

職員リレーコラム（.） 職員自己紹介 その9

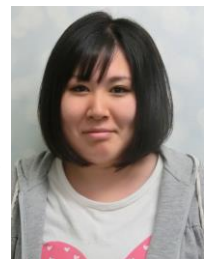
今年の6月で在勤4年目になる、白澤康明です。昨年度までは、3階の男の子ホールを担当しておりましたが、今年度から本園のフリー職員として、2階・3階フロアを行ったり来たりしながら、支援のお手伝いをさせて頂いています。現在、本園では2階に2名、3階に2名の幼児さんと新1年生になったばかりの子が3名在籍しております。小さい子ばかりで良く言えば、賑やか、悪く言えば騒がしい日々を過ごしております。しかし、2階のフロアも3階のフロアも中高生がしっかりしているので、小さい子の面倒を良く見てくれており、小さい子は大きい子の良い面を見習い、大きい子は小さい子の面倒を見る事で優しさや思いやる心が育っているように感じます。そんな子ども達の優しい姿や笑顔を見て、自分も「頑張ろう」と毎日パワーをもらっています。今井城学園は賑やかで明るい素敵な施設です。秋頃には地域交流会もあるので、機会があれば、是非お立ち寄り下さい。



はじめまして。グループホーム「やまぶき」で働かせて頂いている、水澤里栄と申します。私は、昨年の8月までの約3年半を本園2階で働かせて頂き、昨年の9月より、新設された「やまぶき」に移動しました。

「やまぶき」では、高校生4人と小学生2人という幅の広い年齢層ですが、個性豊かな6人のメンバーと、こちらも個性豊かな職員3人で毎日の生活を送っております。隣接している、グループホーム「いぶき」との双子型ホームとして、毎日助け合い・協力しながら生活しています。

私はこれまで、子どもたちにたくさんの事を教えてもらい、この5年間で少しずつではありますが、成長させてもらいました。これからも、子どもたちと共に向き合い、時にはぶつかりながらも、一緒に大きくなっていくけたらと思います。これからも今井城学園を宜しくお願い致します。



ほっと・ファミリー

ファミリー・ソーシャル・ワーカー 吉澤恵子

連載9回目。児童養護施設には様々な理由で入所して来る子ども達が生活をしております。すべてのケースが個別の課題を抱え、まったく同じ課題を抱えたケースなど存在しません。

子ども達は、さまざまな問題や症状を示しますが、それらには必ず背景があり、子ども自身の行きにくさの表れでもあります。そういった子ども達が抱えた背景を理解し、日々の生きにくい状況を少しでも改善して、子どもが生き生きと過ごせる様に手を掛けることが養育の大きな要となります。児童養護施設では、手を掛ける養育の手立てとして『アセスメント』という言葉が広く言われる様になりました。

『アセスメント』は、非常に多くの情報や視点が集約され、統合された結果として成立します。

『アセスメント』は、常に仮説であり、修正が繰り返されるものです。ゆえに多様な問題や症状を総合的にとらえ、その背景にあるより本質的な問題を見定める事が出来ます。職員の対応の質が支援の死活問題になるのですが、それを左右する大きな要素の1つが『援助者のアセスメント力』ということになります。

子ども達に共通するテーマとして、養育環境の中で複数の喪失体験を繰り返し、自分の生きる足場が非常に不安定である事。また、子ども自身がこうした喪失の事実と直面して、いかにこの事実と折り合いをつけ、心の中に収めるのかという難題があります。こうした問題は、子どもが成長し、思春期の入り口に差し掛かる頃から顕著になります。

こうしたテーマに援助者がどう向き合い、受け止め、対応するべきなのか・・・対応の道筋は、子どもの状態と抱えた背景、それに向き合う子どもの心情をどれだけ理解し、具体的な対応を徹底的に考え抜く中で、苦渋の中からかろうじて見えてくる類いのものだと言えます。『アセスメント』は、こうした究極のテーマに向き合うベースとなり、より適切な答えを見出す過程を導き出すことができます。

また、『アセスメント』は、チーム全体で行う事で、力量のあるチームを目指す事で、子どもの回復と成長に繋がります。家庭の育児の中でも、こうした『アセスメント』という視点に立って、子どもの背景を総合的に考えて、子育てする事が役立つのではないのでしょうか・・・



こころの窓

心理士 長嶋 彩

「勇気欠乏症」という現象をご存じでしょうか。これは字のごとく「勇気が欠けた状態」のことです。現代人は他者から評価されることを恐れて周りに無理に同調したり、劣等感により立ち向かうべき課題を避けてしまう人が増えています。社会全体の勇気に欠けた問題行動としては、大人の場合は児童虐待や夫婦間のDV、子どもの場合は不登校や家庭内暴力などが取り上げられ、このようなニュースを耳にしない日はないように感じます。

ここで言う「勇気」とは、事の理非や是非を考えずに発揮する「蛮勇」ではありません。個人心理学の創始者であるA.アドラーの言葉を引用すると、「勇気」は“困難を克服する努力”と解釈します。誰しも自らの劣等感を引け目に感じ、自身の課題を見ないようにすることがあると思います。劣等感とは、「こうでありたい」という目標と現実の自分とのギャップを感じたときに抱く陰性感情であり、人は目標を持つ限り劣等感を持ちます。むしろ劣等感とは健康で正常な努力と成長への刺激なのです。私自身劣等感はない方が良いと思っていましたが、そうではないのですね。それに対して建設的な対処を選択するか、非建設的な対処を選択するかを決めるのは自分自身です。生育歴や環境要因による外的な劣等感も存在しますが、「自分は運命の犠牲者」と見なすか「自分は運命の主人公」と見なすかも全て自己決定出来るとA.アドラーは述べています。しかし現代ではその「勇気」が足りず、個人の劣等感に対して非建設的な対処を選択している人が多くなっており、悲しいことに上記の問題行動が増加傾向にあります。

被援助者に助言・指導をする方法も一つの支援方法ですが、そこには上下関係が存在し、結果援助者に依存的になる面があります。一方勇気づけの支援方法は、共感的態度で対等な関係性の中で自尊心と達成感を与える継続的なプロセスであり、自分で困難を克服するために努力しようとする自立心が育ちます。現代に足りない勇気。子ども達にもその「勇気」を育ててみるのはいかがでしょうか。参考文献：岩井 俊憲（2011）『勇気づけの心理学』金子書房

レッツ・クッキング

栄養士 原口康子

炊き込みご飯や混ぜご飯、白飯に味が付いているご飯は子どもにも比較的好評ではありませんか？当園でもよく食べてくれるメニューになっています。そこで今回は、混ぜ込みご飯をご紹介します。具材は、栄養は豊富なのに子どもにはあまり好まれない食材「ひじき」。ひじきには、食物繊維（おなかの調子を整える）や鉄分（不足すると貧血や冷え性に）、カルシウム（歯の健康の維持や骨粗鬆症予防）が多く含まれています。吸収をよくするためには、ビタミンDを多く含む食品+カルシウム、タンパク質・ビタミンCの多い食品+鉄分の組み合わせが良い！とされています。今回は干し椎茸（ビタミンD）を使い、カルシウム吸収率UP！を狙いたいと思います。

【混ぜ込みご飯】 4人分

〈材料〉	水	120 ml
米 2合	顆粒だし	小1/4杯
塩 小1/5杯	醤油	大1・1/6杯
干ひじき（芽）8g	みりん	大1杯弱
白滝 20g	砂糖	大1杯強
人参 1/5本		
えのき 1/5袋		
干椎茸 2g		
油揚げ 1/2枚		
白ごま 4g		



〈作り方〉

- ①芽ひじきをたっぷりの水で戻し、水気をきる。白滝は下茹でし、食べたやすい長さに切る。人参千切り。えのきは石づきをとり、1/2カットほぐす。干椎茸は水で戻し、スライス。油揚げは食べやすい長さの千切り。
- ②鍋に分量の水と人参をいれ、沸騰させる。芽ひじきを入れ再沸騰したところで、残りの材料を入れる。再び沸騰したらだし・砂糖・みりん・醤油の順に入れ、5分間弱火で煮る。煮えたところで、白ごまを入れる。
- ③煮汁と具材を分け、お米+（水+煮汁+塩）で炊飯器にセット。
- ④炊きあがったところに具材を入れ、混ぜ込み、完成。

※お茶碗に盛りつけた後、千切りした絹さやを中央にのせると彩りが良くなります。

※鶏肉（タンパク質）を加えても美味しくできます。（鉄分の吸収率UP!）



子どもに付き合う（2）

学習指導員 藤野哲夫

前回は、子どもの感情を大切にすることについて書きました。今回は子どもの学習スタイルを大事にすることについて述べます。

ある子は、問題を声に出して読み上げながら解きます。まるで私に「一緒に考えてよー」と言っているように聞こえます。私は「なるほど」とか「あれ、難しいね」とかと相づちを打ちながら耳を傾けます。この子は解けないと、すぐに「分からない」と教を求めてきます。私もすぐに応えます。この子にとって学習することは、人とコミュニケーションをとる大切なプロセスになっているように思えます。

反対に、できるだけ自力で解きたいと強く願う子がいます。私の教えようとする気配を察すると、「言わないでね、言わないでね」と先手を打ってきます。教えることが仕事だと思っている私にとって、教えないことはストレスになり、このストレスと闘うことが仕事に加わります。この子の様子をよく見ながら、行き詰まっていると判断したとき、初めて「言おうか？」と問いかけます。「うん」とうなづくのを待つて、ようやく「これはね」と説明を開始します。

学習スタイルは一人ひとり違います。子どもの個性そのもので、人格の現れといってよいと思います。ですから子どもの学習スタイルを大切にすることは、その子自身を尊重することと同じ意味を持つと思います。

編集後記 おかげさまで「今井城学園通信」第9号を発行することができました。この通信を通じて今井城学園を地域の皆様に広く知っていただき、職員の持つ専門知識が皆様の生活に少しでもお役に立てればと願っています。記事の内容に関してご質問、ご要望等がございましたら、下記の連絡先まで遠慮無くご連絡ください。

今井城学園電話0428-31-2277 [Eメール info@imaijo.or.jp](mailto:info@imaijo.or.jp)